
[成果情報名] 9月下旬から出荷でき食味が優れる極早生温州ミカン「早味かん」

[要約]「早味かん」は、「ゆら早生」の珠心胚実生から育成し、「ゆら早生」より着色、成熟が早く9月下旬から出荷できる極早生温州である。「日南1号」より減酸が早く、糖酸比は高く良食味で、じょうのう膜が薄くて食感が優れる。

[キーワード] 極早生温州、早味かん、着色、減酸

[担当部署] 果樹部・果樹栽培チーム

[連絡先] 092-922-4946

[対象作目] 果樹

[専門項目] 育種

[成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

温州ミカンの産地間競争が激化する中、最も早く出荷される極早生温州は販売を牽引する重要な役目を持つ。本県では「日南1号」の前の9月下旬から出荷できる食味良好な品種が無く、オリジナル品種の開発が強く望まれている。そこで、着色、減酸が早く、糖度が高い極早生温州を育成する。

(要望機関名:生産流通課(H19)、生産流通課・北筑前普(H16))

[成果の内容・特徴]

「早味かん」は、「ゆら早生」の珠心胚実生から選抜した極早生温州である。本品種の特徴は以下のとおりである。

1. 「早味かん」の枝梢の発生は中、樹勢は「日南1号」に比べてやや弱い。果形は「日南1号」と異なり扁球である(表1、図1)。
2. 果実の着色開始が9月3半旬で、9月下旬に着色歩合3～5分、10月上旬には6分程度となる。着色の進行は「日南1号」同等で、「ゆら早生」に比べて早い(表2)。
3. 果実品質は、9月下旬に糖度が10度程度、クエン酸含量は1.0g/100ml以下となり、出荷できる。「日南1号」に比べて、クエン酸含量が少なく、糖酸比が高くて食味が良い。じょうのう膜は薄く、食感が優れる(表3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本県の育成品種として平成24年2月20日に品種登録出願公表。
2. 高接ぎ2年目、若齢樹等に発生しやすい長い枝梢は着花、着果が不安定である。樹勢が安定するまでは、秋期の誘引で着花を促すとともに開花期の芽かき等で着果促進を図る。

[具体的データ]

表1 「早味かん」の特性（平成20～23年）

品 種 系 統	早味かん	日南1号
樹 勢	中	やや強
成熟期	9月下旬～ 10月上旬	10月上旬
果 形	扁球	扁平
じょうのう膜	薄	中
減 酸	早い	中



図1 果実外観比較

注) 収穫日：平成22年10月8日

表2 「早味かん」の着色歩合の推移（平成20～23年）

品 種 系 統	着色歩合の推移 (月/日)					
	9/15	9/20	9/25	9/30	10/5	10/10
	分	分	分	分	分	分
早味かん	1.1	2.2	3.1	3.8	4.6	6.3
日南1号	0.6	1.4	2.5	3.8	5.0	6.3
ゆら早生	0.1	0.4	0.5	1.4	2.2	3.1

注) 着色歩合は完全着色を10とした時の果実表面の着色した割合。

表3 「早味かん」の果実品質（平成20～23年）

調 査 時 期	品 種 系 統	果皮色 (チャート)	糖 度 (Brix)	クエン酸含量 (g/100ml)	糖酸比
9月下旬	早味かん	2.8	10.0	0.83	12.1
	日南1号	1.9	8.7	1.19	7.3
10月上旬	早味かん	3.7	10.3	0.81	12.9
	日南1号	3.4	8.7	1.00	8.8

注) 1. 9月下旬は平成21～23年3か年、10月上旬は平成20～23年4か年平均。

2. いずれもM級果を供試、果皮色はカラーチャート指数。

[その他]

研究課題名：着色が良く糖度が高い極早生温州の品種開発

予算区分：県特（おいしく健康によい新品種開発事業）、経常

研究期間：平成23年度（県特：平成16～20年、経常：平成21～25年）

研究担当者：松本和紀、矢羽田二郎、大庭義材、牛島孝策、浦広幸、大倉英憲、堀江裕一郎、藤島宏之、村本晃司